

戦時中の構造物、新たに発見か？

今年度から文化係 文化財担当となりました仲嶺 真太です。よろしくお願いたします。昨年度、文化財の有無に伴う踏査を行った結果、新たに名嘉真で2基の戦時中に作られたと思われる構造物（仮称 壕）をみつけましたので、その構造物について紹介したいと思います。

場所は県民の森の北側で、国道 58 号の途中にあります。国道 58 号を下ると小川が流れていて、その小川から入ってきます。（地図上赤楕円マーク）



川沿いを約 50 メートル歩くと 1 つ目の壕があります。川から一段上がったところにあり、入り口付近は階段状になっていました。入り口上部は現在崩落しており、内部には一部工具による加工痕が見られました。大きさは内部幅が約 175 センチ、内部高が約 120 センチ、奥行きが約 180 センチ、入り口幅が約 140 センチで大人 2 人が入れるぐらいの大きさでした。



壕 1 と加工痕（赤破線円）

2 つ目の壕は 1 つ目の壕からさらに 10 メートルほど川沿いを歩いたところにあります。こちらも川から一段上がったところにあり、入り口と内部に加工痕が見られました。この壕も入り口上部は崩落が進んでいました。壕の大きさは内部幅が約 120 センチ、内部高が約 100 センチ、奥行きが約 190 センチ、入り口幅が約 90 センチです。1 つ目の壕より小さく大人 1 人が入れるぐらいの大きさでした。



壕 2 の入り口



壕 2 の計測作業

この新たに確認した 2 基の壕は情報がまだなく、いつだれがどのような目的で作ったのかわからない状況です。今後も調査を続けていきますが、この壕のことで何か情報がありましたら、恩納村博物館へ情報提供よろしくお願いたします。

（文化係 仲嶺）

※この構造物を壕と仮称したのは村内全域で確認されている壕と構造が同じようなものであるためです。

お問い合わせ：博物館 村史編さん係 ☎982-5112